

「工作による表現」の学習評価と指導についての考察

佐々木 澄

A Study on Instruction and Evaluation of “Expression by Handicraft”

Masumi Sasaki

「工作による表現」で集約される造形表現は、幼稚園教育要領及び保育所保育指針の指導要領に準拠する図画工作の実践的な学習構造と造形原理を踏まえた教科内容で保育士・幼稚園教諭の養成校として、図画工作の教育・保育内容を多層的な視点で造形活動の基本原則と教育効果に導かれるカリキュラムの指導方針とともに自己啓発に対する支援を通じ、学生の育成に積極的に取り組ませるものである。

保育士・幼稚園教諭を目指す学生一人ひとりに自らが求める基礎的な教育方針の定理である造形原理の表現方法や技能、それに包摂されるこどもの創造的思想に付与される情操の心的成長の接続に保育者（学生）の関わり、さらに創作実践で規定される造形カリキュラムの編成を豊かな教育・保育の資源として造形表現の視点を明確に捉えさせている。

ここに「工作による表現」の授業に定義される造形指導の構成要素の概念背景を集約してみる。

Key Words: 「創作指針」「感情の表出」「受容」「色彩構成」「観察視座」

(Received September 11, 2017)

1. はじめに

「工作による表現」の授業編成は、幼稚園要項を踏まえた創作表現および鑑賞までの実践的な造形活動の創作過程を通して、図画工作に着目される創造と思考、豊かな情操感覚などの実際を指導要領の目標に準拠する保育指針として、表現に関する知識の付与を広い視野から授業設計を検討させている。こうした課題意識のもと、受講する学生には「工作による表現」の具体的な創作方針である造形表現の創作意欲への喚起と意識への醸成となる能力の定理を見いだす授業の構築を大きな課題として、創作カリキュラムで発生するこどもの関心態度から感性機能へと導かれる人的援助の接続を重要なキーワードとして捉えさせ、豊かな感性と表現する能力を養うための保育内容を的確な教育指針の課題として授業実践の試みを検討させている。

このように、こどもにより充実した「工作による表現」の授業を展開させるうえで創作活動

* 鹿児島純心女子短期大学生活学科生活学専攻クリエイトコース（〒890-8525 鹿児島市唐湊4丁目22番1号）

に内在するこどもの内的成長の接続を図りながら保育者として造形原理の育成を援助していくカリキュラムの基本的な枠組みを示し、さらにこどもの活動を確保する豊かな感覚を適切な環境構成で多様な指導の形態に即した創作指導が計画的な援助の行為にどう関わるのか、直接的な学習活動の充実のための教育的意義を省察させている。

このように、造形表現で提起される教育的意義を問いながら課題である感性と表現に関わる内容を創作への指導・助言など基本的な観察の流れを読み取りながら、高い評価に結びつく教育効果の働きかけの工夫について、こどもの実態を読み取る教育環境のあり方を目的として求められる創作過程で構築される教育意義を問いつつ、感覚的な育成の支援を見通した創作過程の枠組みを媒介とする多様な見地を示しながら表現に関する5つの援助項目に掲げる〔創作指針〕〔受容〕〔感情の表出〕〔色彩理論〕〔観察視座〕を重要な評価観察の要因として整理させて活動の意義を明らかにさせている。

さらに、自発的に興味に応じるこどもの創作の予測や仮説を読み取らせながら授業内容のなかで、さまざまな造形表現の遊びの提案に提起される関心態度の配慮に適切に取り組む学習指導の構築を行ない、多様な角度からこどもの豊かな創造性に深くかかわる資質や能力の具現の提供を効率的にこどもに定位される有効な授業の取り組みを重視すべき職務の価値として積極的に進めさせている。

つまり、活動そのものの働きかけの必要性を創作指針の認識として質的に拡大させて学習意欲へと繋げさせているのである。

このように、こどもの有意差も想定した5つの援助の枠組みに幼稚園教諭・保育士および認定こども園における保育教諭となる学生に誘導する授業実践の試みのなかで、造形表現の援助の手がかりとなる作例を示しながら環境教育の構成者として、創作成果の有効な運用能力を高める視点を確認させながら造形表現の指導課題の実践的な教育効果を整理させるのである。

その上で、応答的に行うこどもの考えや創作に伴う表現の多様性と効率性を発見するこどもへの人的支援の取り組みを重要な課題として、見出すこどもの意識の変化と表現指導の概念を周知させて造形のあり方を提案している。

このように、制作過程で多層的な視点に基づく課題の考えや創作活動での展開に配慮の高い目標を設定して、その表現行為から表出されるこどもの内的感情に注目しながら、その上で、こどもの自己に対する自負心と対人的な情操など一連の創作過程で確認される現象を共通の認識の観察として、さらに創作行為のなかで満足感の態度や歓声を発する喜びの表情の度合いなど、さまざまな答えにたどり着くこどもの多様な発達動作と関心態度の発見を明らかにして、この授業を保証させる観点別の学習状況の重要な分析評価をその取り組みの根拠として、積極的に関わる意欲や探究心などを創作現場における創作的な援助のあり方を検証させている。

保育者として、こどもの意欲に応じた能力や態度の働きかけなど学びの過程を理解させて人材育成に繋げる適切な保育実践の行動観察や教育効果の働きかけを見出す役割は大きく、環境教育を明らかに展開する検討課題は多いと整理されるが、表現という領域の指導形態を一般目標として保育士・幼稚園教育要領に示される幼稚園教育の基本を踏まえた教育意義の原則の取り組みについて、一人ひとりの特性に応じた人格形成の基礎を培う幼児教育の推進指針を常に問いながら、保育を深める上で環境教育の必要性が要請される学生たちに、全般を見据えた幅

広い実践指導の適切な支援の基礎を総合的な意識の啓発として対応が示される。

ここでいう統一的に述べる保育者とは、幼稚園教諭・保育士および認定こども園における保育教諭のことを指し、教育課程編成の基本原則など目標である教育実践に即した幼児教育の専門職を目指す本学、こども学専攻の学生のことである。

2. 「工作による表現」の主題と目的の意義

保育園保育指針・幼稚園教育要領に示される保育内容の指導法の主題と目的の意義を踏まえ、図画工作の領域のねらいおよび内容の認識に基づき、保育園・幼稚園教育において育みたい領域の一つである図画・工作表現の本学の授業のカリキュラムである「工作による表現」においては、多様な教材を活用し、造形学習で構築される工作表現としての実践的な造形の基礎定理や主体的な内的理念に基づくこどもの思想や感情など、保育実践の具体的場面の構想を研究目的として学習内容を明確に保育者となる学生に教育的な対応で指導と支援の充実を推進させている。

こどもと保育士・幼稚園教諭となる学生との大切な人間関係の構築と表現行為の指導のなかで発生する内的心理の重要性を基礎的な学習理解の自立的な確信の展開を的確に捉えさせて、適切な学習指導に取り組む学習状況の視点を全体目標に想定させながらその運用能力を発揮させている。

このように、実際の指導場面を想定した工作表現の実施で豊かなこどもの個性を観念の域に導きながら自己啓発に対する支援の充実につなげている。さらに、多層的な視点で適切支援に取り組む保育士の先導的な保育学習の諸概念の観察を具体的に取り上げて、図画教育の本質を実感させて魅力ある学習意欲へと繋げさせているのである。

すなわち、学生は安定した情緒の下で保育者としての意義と役割を認識させて、自己を十分に発揮することによりこどもの発達に必要な教育政策の活動動向が重視されることを意識付け、その明らかに重視される到達目標を概観させて課題の焦点化を学生個々に客観的な観察視座を探らせているのである。また、周囲への配慮高い目標を設定し適応力と推測される知識の認識、指導力などの問題解決を承認価値として保育原理の指導のあり方を目標に掲げて深い理解を示させている。

このように、学習を通じて創作の楽しさを知ること、創作の過程で考えることの楽しさ、また指導する体制での発達動作の支援価値や協調意識という肯定感の高まりなど、創作意欲の喚起から具体的な創作の解決に見ることができるよう事例を示しながら工作表現の実施で体得させるのである。

さらに、重要な意義であるこどもを取り巻く環境を援助していく切り口としての視点の明確化は、個性の原則を実践的な内容に示させて感情の表出支援の原則である精神面の有効的な教育効果の働きを指導目的として、重要な幼児能力や態度を明確な問題意識として、こどもの学びや育ちの原点である成長の意識の変化の調査結果が示される。

このように、保育者の多層的な視点を共感させながら、こどもへの積極的な意識の啓発や融和的に取り組む創作指針を必須課題として構築していくことが望ましいと推察される。その際、

こどもの主体的な満足のいく活動が確保されるように受容や個別化の原則を一人ひとりの学習に学生の行動の理解と態度で接する人的支援の予測に基づき、その実態に即応した表現行為から引き出される必要な誘導の配置が重要な観察視座と位置づける実態が提示される。

保育資源として獲得されるこどもの大切な内的な感情の表現を通して、こどもの自己の考えや感情を自由に学び合う行為が造形活動の基礎的な表現の能力を受け止める基本として慎重に配慮を働かせている。そのように保育者には高い評価に結びつく教育効果の適切な働きかけと意図的な学習指導の役割が大きく期待されるものと思われる。

以上のことから、保育をめぐる学生の役割として、こどもに対する適切な見守りが援助していく学習指導過程の大切な編成と、その学習内容の実際の側面とそこに至った背景も含めてあるがままの受け入れる自己決定の法則の基本である留意点として徹底した理解を深めさせるのである。

このように、こどもが自らの意思に基づいて創作表現の成果を決定づける補助的な援助は擁護する保育者としての原則であること、よって指導する教師である保育者はいろいろな選択肢を用意しながらこどもが真理を求め、自己決定を支援することを教育方針としてこども能力や態度の配慮が必要など検討課題の周知と促進を図るのである。

それにより、教育的意義として計画的に高まる関係を考察させて、保育士・幼稚園教諭となる学生に整理させながら、こどもの自己育成に向けた指導の取組の推進と保育学習の充実、実践力や実務能力の向上を図るための学習の充実化を醸成させて、教師としての職責やさまざまな表現関係に応じる関わりの取り組みは徹底されることである。

したがって、その主眼にする授業展開の適用やねらいおよび内容は、幼児期にふさわしい必要な体験が得られる造形表現内容の実験計画であり、指導する学生の関心態度は明確に機能志向から感性志向へと変換されこれまでの潜在的な態度を一変させる。こうした予測的な解決可能な学習として焦点を当てさせてこどもの立場に立って行うものとして有効的な高い評価が確認され実践的な教育効果の期待と強化が、その学習意欲への関連性として指摘されるのである。

このように、心身の調和のとれた発達を培う個に応じた指導方法の重要な学習内容を工夫する秩序づけられる原則の意義として、またスムーズな接続を図る教育活動の留意事項や目標の達成と慎重に働かせる配慮を有効な手法として、学習進度を深化させる指導力のある保育士・幼稚園教諭の育成に周知徹底させて知識の情報を捉えさせて学習意欲につなげさせている。

こうして、教育課題へと接続される創造的な表現の幅広い諸活動を通して、指導における具体的な授業の展開を推し進め、特定の知識や技術に基づいて保育者の創作課程で知覚的な心情や主張となる豊かな感性の育成を強化させることが重要な検討課題である。さらに、徹底される目標として学生に保育士・幼稚園教諭として創作活動の教育機能の充実を進めていく上で、協働する経験を重ねる取り組みとして自ら行動する実践力の向上を図るとともに、共通の目的を明確に工作表現の幅広い創作活動で得る豊かな美的体験に造形表現を愛好する心情の育成の適切な授業成果の指導法を示唆している。

このように、表現活動を行う保育士・幼稚園教諭としてこどもへの主体性の保証の目的である教育効果を高める検証実験として良好な期待と見通しを得ることが示されることが大切であり、どんな課題にしても保育士になる学生自身が学習の事前把握をしておくことは要求される。

しかしながら、学生の色彩に対する認知の度合いについては今後の重要な検討課題である。色彩についてはこれまで学生の直感的な感性志向に従った高い色彩の処理能力である程度の評価はされるが、造形活動に大切な色彩の基礎的な伝達のための色彩体系の感性イメージの貢献度に対する色彩知識は極めて限定されるという知識の高低が明確に計測されて否めない、さらなる指導強化が必要と分析される。

将来、保育士・幼稚園教諭として取り組む工作表現の多様な見地から、保育者となる学生へ提起される大きな指導課題である色彩の豊富で体系的な配色知識の提供は、こども中心の保育を志向する適切な方法として立ち止まって考えなければならない極めて重要な課題である。学生が身につける早急な課題として色彩の取り組みの推進が明らかに求められる。

3. 『工作による表現』の立案・実施・構成

3.1 造形指導に求められる教育者としての人材

こどもの興味や関心は望ましい方向に導かれていくことが大切である。創作計画や活動そのものを自ら展開していくことが適切な方法として望まれ、その観察されるこどもに対して安心した存在のできる人間関係の構築のつながりは意欲を育てる重要なキーワードであり、保育者に求められるものといえる。

つまり、こどもが保育者との信頼関係に支えられて自己を発揮するなかでお互いの思いや関わりを深めることによって興味・関心も深まり連帯意識を醸成する不可欠な人材となることが提案されることである。このように、自学を促し醸成を図っていくことが重要であり具体的に自己啓発の積極的な支援として配慮を働かせることが挙げられる。

とりわけ、場面を想定したこどもの理解の実態を読み取りながら支援の充実と適正化を図っていく創作指導の整理を考察させながらこどもに大切な能力と確実な技術の習得は、工作表現の創作の基本方針においてこどもに求められる効果的な位置付けとして能力を明らかにすることである。このように、こども一人ひとりに必要とされる能力の有効性を確認して、学生個々がそれを習得するための自己啓発の基本事項である人的環境の行為である満足感の環境を提供することが必要と主張されるのである。

また、保育者の役割とは、人的援助者としての基礎的な知識の援助を育成する意図が大切であり、内的環境の構成者として明確な創作行為の視点を持たせることがこどもの意欲に応じた支援者の個々の適切な行動観察で求められる用意であり、形成的な直接援助や応答的な評価の適切な支援が興味・関心への理解も深まり関心が広がると論証される。

その行為がこども一人ひとりの能力を高め、強化を図るためには個人の意欲に応じた進行の考察を配慮して捉えていくことが重要である。そこで、保育者としてこどもの表現能力のニーズを把握する有効な即応行為としてうなずきや相づちを傾聴的に行なうことを重要な定義とし、さらに創意思図や創造的な思いを適格に使い分け、造形活動の基礎的な能力育成に努めるとともに、こども一人ひとりの実践力の向上を図る基礎的な授業の充実など、目的に応じた効果的で多様なカリキュラムを提供していくことが豊かなこどもの情操を養成させる意義として対応の必要性を確認させている。

したがって、保育士・幼稚園教諭の役割に基づいてそれぞれの課題が示されるカリキュラムの取組みを進めるとともに、こどもと相互の連携・協力を図りながら、より一層の効果的で効率的な幼児育成を進めていくことは実践的な教育効果が期待されることを求めさせている。

このように保育士・幼稚園教諭はこどもの育成方針に基づいてこどもの能力開発を進めるとともに課題に関する実務的な工作表現の実施に、創作実践や自己啓発に対する支援等を通して基本的な考え方を踏まえ、こどもの育成に積極的に取り組みの定着化を整理させているのである。

さらに、こどもの創作意欲を引き出し、精神的な概念であるこどもへの情緒的感情の活用で接する言語的なコミュニケーションスキルの養成が創作の世界をいかに膨らませていくことが重要な意義として示される。このように保育士・幼稚園教諭としての創作実践を通してコミュニケーション能力で発揮される相互連携育成の有効性を目標としたこどもの現実とそこに至った背景も含めて、あるがままに受け止める受容の原則に重点をおくことが望ましいと考察は積極的に説き勧めていきたい。

このように保育士・幼稚園教諭としての観点から、将来の教師としてこどもに応じた造形の知識やスキル等を身につけることを習得させて、主体となる造形学習の実践に即応した創作意欲を喚起させる観点から重要な教育課題である背景の造形指導の奨励、支援、実践などの使命感と倫理観の成果の普及と確立を行い、教育課題の創出の基礎となることをこどもの理解として学生に保育士・幼稚園教諭としての意識の啓発の取り組みを期待するのである。

前章で触れたように、必要な支援の援助法は教育的意義を問いつつ学生の視座から観察によるアプローチとして認識される。こどもの理解の実態を読み取りながらニーズを踏まえた支援の充実と適正化を図っていく創作指導の整理を考察させながら学習意欲は積極的に検討させていく。

3.2 創作指導による援助内容

保育者（学生）への必須課題として、こどもとの人間関係の構築を設定することが大切であることは前章で述べているが、一層、寄り添った基礎的な学習理論と指導計画の作成に当たっては、効率的な発達動作の指導や表現内容の適切な助言の教育活動を通して、こどもの日常生活の自立した保育の維持と改善に向けての活躍となり、こどもの理解に基づいた創作実践で発生する実情の自己啓発に対する指導場面の支援の充実であると理解させている。多様な制作過程での状況の変化の察知や心のこもった創作指導や気持ちを促す創作指導などの適応作業が自己啓発の機運を高め、自学を促す調和のとれた心身の醸成を図っていくことである。その際、こどもの情操意識の高揚を図ることは重要な連携を模索する理由や根拠を示しつつ、対応の役割の意義を問わなければならないと指導するのである。

このため、造形過程での原因の究明においてもこどもの自己啓発の支援である積極的な対応の促進を試論させるとともに、こどものニーズを踏まえた豊富な教科メニューの授業の展開で活発に言語活動を充実させながら自己啓発支援の充実を図らせるのである。

また、指導というシラバス運用の最適化を図っていくことがこどもとの大切な協働による概念化される活動の展開が極めて限定された強化になり、こどもが理解の理論および方法に意識

づけられる。

こどもはさまざまなことを考え、工夫を積み重ねる知的行為と受講支援のなかで創作表現を多目的に確認している。

おしなべて、学生には保育士・幼稚園教諭としての心情の声かけや安全、そして、注目したい表現すべき内面の心理が心のこもった創作活動の援助の現象として定位されていくべき慎重な配慮を働かせ指導に関する知識および技術の行動が貫徹されることが大切であると活用策の認識を高めさせている。こどもとの絶対的信頼関係の構築となる個人情報への把握や達成記録の作成はこどもの満足感を高めるための援助活動の義務として、創作指導による連帯感を醸成と共感的な援助内容を問いながら、こどもとの関係やほかの背景から効率的に理解することを示さなければならない。

このように、将来、教師としての保育士・幼稚園教諭になる学生に授業後の観察と記録は、こどもの特性の発見と伸長を図るとともに指導計画の運営に関する知識の付与、幅広い視点から能力開発を育成させることが不可欠な課題であると環境づくりを説くのである。

4. コミュニケーションの基礎

4.1 人間関係とこども心理

「工作による表現」において、まずはこどもと協働の心理的な人間関係の統合支援である連帯感を醸成する役割を忘れてはならない。集約して考えられることは先導的な取り組みをしていく上で心を動かす出来ごとや感動を伝え合う楽しさを味わう表現原理が貫徹されることがふさわしい教育の展開が重要である。そのなかでこどもの心理を見通した指導場面で取得する信頼関係の確立に強化される自己認知の受容という統制された共感的理解と情緒的関与が重要な機会を得る教育活動の特色であると慎重な配慮を働かせている。

そこで「工作による表現」の指導について考えると、遊びの提案をしていく創作過程で保育士・幼稚園教諭の段階的な援助の視点を当てさせる学習指導の教育方針は、実質的な内面的機能を生み出すこどもとの能力開発の関わりと深める遊びから記録される能力や態度の育成に資する意識の高揚を引き出す向上機能として学習プログラムを主眼とする十分なこどもの活動の具体的な有意差を検討しながら支援を担う共通の認識が必要である。

そこで、こども心理を段階的に形成支援するコミュニケーションの基礎を明確な視点の達成目標として、その学習運用の重要な原則が創作の相乗効果が生まれる最も重要な意義として有意差を検討させている。具体的には、創作を形成していく上でこの人間関係とこども心理を築く必要なものとして、まずこどもとの人間関係、信頼関係などの観察視座で探ることである。学習範囲の主な学習内容として人間関係の形成とは、とりわけ保育士・幼稚園教諭として指導現場で、まずは環境づくりである人間関係を築くことが前提となる。こどもの行動傾向とか性格や感動を客観的に認識する自己覚知など、こどもの感情を理解し、その上で、向上を図るためにその感情に寄り添う補助的な支援の行為が共感的な理解であり、創作現場でこどもと相互の親しい感情が通い合う状態のラポールの形成が必然的に発生するのである。このことを理解させて、寛容な受容というこどものあるがままの姿である性格・行動・発言を受け入れて効果

的な環境づくりを進めていくことが教育意義を支援することと理解させている。

このように、こども心理の構築は多層的な視点で共感的理解やまた、受容の態度で接する積極的な交流の醸成が大切なコミュニケーションの基礎になり、その技術を活用することでこどもの観察視座を探ることになってくるのである。そのような表現の指導段階において、学習するこどもの行動態度の自覚という感情の表出がある。つまり、自覚とは保育士・幼稚園教諭がこどもの性格、行動計画、感情効果などを客観的に認識する重要な課題であり、学習指導の実践で展開される重要な課題と理解されなければならない。

そのように学生には実践を通したさまざまな創作支援のなかで受容という補助的な自立性のことばと、こどものあるがままの態度を見抜く視点として、こどもには日常の重要性を重視する人間意識の観点を理解させている。それにより、実践的な創作の現場においては学生がこどものことばや性格、行動など一挙手一投足を素直に受け入れる倫理観と使命感、そのような積極的な指導と援助場面での取り組みの支援で接する取り組みが重要な意味を持つのである。

さらに、共感的理解とは受容の延長で対人であるこどもの創作作業の展開の援助において、保育士・幼稚園教諭になる学生が創作過程で見るこどもの底流にある感情を定量的な理解を示すことによって、こどもとの学習指導の対人関係の基盤であるコミュニケーション形成が信頼関係が深化され、確立されていくのである。

このように、創作指導を行う現場での創作学習の実践的な行動を取得する要素は、その主体であるこども心理の根本概念を前提においた保育者の実践的な行動力がより具体的に慎重な配慮を働かせていくことが創作指針を踏まえた実践的な指導の確立と指摘するのである。

4.2 保育士・幼稚園教諭としての使命感、倫理観等の確立に取り組み

- 1) こどもの情緒的感情を自己覚知しながら接することに配慮しなければならない。
- 2) 学習活動における受容の原則は、こどもの現実をそこに至った背景も含めてあるがままに受け止めることが適切な支援の基盤である。
- 3) こどもの行動や言動の非審判的態度に対する原則は、一般的な価値観に基づいて評価したり、批判したりしないことである。
- 4) 自己決定の原則とは、学生が自らの意思に基づき決定ができるように、誘導していく素地が原則である。場合によっては、保育者は、色々な選択肢を用意して自己決定を支援することが求められる。
- 5) 保育者としての使命感、倫理観等の確立に取り組み、学生の視点に立った授業展開を行うように意識を高める。

4.3 創作指導に求められる人材

- 1) 保育者の豊かな人間性と心に寄り添う保育原理に周囲への高い配慮を発揮することが大切。
- 2) 安心して存在できる人相互支援の指導形態が教育政策を構築することがこども理解である。
- 3) 心のこもった指導、大事なことはこども（幼児）の自尊心を尊重する寄り添った援助が、

こどもの変化を踏まえた指導上の課題を十分に理解することが必要である。

- 4) 保育者は生活設計に根ざした創作による指導計画と基礎的知識を身につけ発達を踏まえた指導については教育上の望むべき支援の方法である。
- 5) こどもとの絶対的信頼関係の形成は教育上の望むべき支援の方法で予測しながら一緒に活動する楽しさを味わい、連帯感を醸成するためには寄り添った援助で活動へ発展させる。
- 6) 間違いを強く指摘しない。伝えたい表現情報は簡潔にわかりやすい言葉で話すなどの配慮が求められる。

4.4 創作指導による援助内容

- 1) 効率的な創作動作の方法の指導や助言は基礎的な学習理論の理解を深め、指導の観点から期待される段階的支援に努める。
- 2) こどもの創作の自立した維持と改善は、具体的な支援技能の行動につながる指導体系である。
- 3) 内容の指導の状況変化の察知と適応作業は大切な支援技能の向上につながる共同作業であることとして理解する。
- 4) 実質的な機能を生み出す声掛けや安全、心のこもった創作活動の援助は「工作による表現」学習のこどもとのコミュニケーションを促進させる基盤的な誘引活動で、保育者とこどもとの絶対的信頼関係の構築である。
- 5) こどもに関する知識および技能の向上に努める学習活動は、新たなものを生み出す指導体系で原則となる受容的態度で受け止める配慮が必要である。
- 6) 実質的な学習の行動記録と指導記録の作成は、こどものさらに完成度の高い創作自立への促進の事後指導につながっていく。つまり心身の変化と起因に関与する指導記録の作成で活動そのものを見直す視点を忘れてはならない。

4.5 創作指導によるコミュニケーション技術

- 1) コミュニケーション技術とは、言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションに分類され、総合的な指導のなかでこどもの感性や情緒の発達を支える創作指導の整備面の基盤を援助していく上で大切である。
- 2) 保育者は、学習の整備面となる各コミュニケーション技術において、創作の援助となる活用方法や効果を熟知しておくことで、段階的形成の支援につながり完成度の高い作品の技能向上の取り組みが望まれる。
- 3) こどもの創作現場の実践上の状況に応じて、先導的な適切な支援の技術である言語的コミュニケーションの使い分けは呼応し合う協働的な交流機会が提供されて学習活動を推進させる。
- 4) 非言語的コミュニケーションとは、伝達目的のIT機器類を使用することでこどもの理解に成果をあげる重要な援助法で、目的に応じて興味関心の事柄を例示するなどの指導で技術能力の向上に努める知的支援の学習活動で意図を持った指導といえる。

4.6 自己開示

- 1) 必ずしも一定の意図のもとで伝達できるとは限らないと言えるが、自己開示とは、対人関係におけるコミュニケーションの活性化の図る重要な要素であり、自分自身に関する情報を、ことばを介して伝えることで課題へ取り組む創作指針の要因となる。
- 2) 自己開示させることは基礎的な学習支援で、こどもに安心感を与える教育効果の働きかけであるが、実際には、こどもが正確に認識しない場合も想定されるが共有していく寄り添った援助が求められる。
- 3) 援助と指導課題である言語活動を介して、課題をありのままに伝え合う支援はこどもの心を開示させて信頼の増幅と新たな課題が導き出され適切な教育効果の働きかけとなる。

4.7 シラバス内容の表現の明確化

- 1) 授業計画作成のポイントであるシラバスによる講義概要の解釈は適切な学習目標の設定、作業の計画と内容表現の解説であり、題材・創造・材料・技術等、課題に対する基本的な学習支援の活動につながる。
- 2) シラバス内容を明示することは、創作に関わるカリキュラムの視点事項の内容に柔軟に対応でき実践的な創作作業の開示によりスキルアップの向上効果を生みだしこどもの能力や態度の育成につながる。
- 3) シラバスの内容等を示すことで、授業の目的と到達目標の明確化を現実的なものにする諸課題を踏まえた表現の検討課題に取り組みが必要になってくる。
- 4) シラバスの明確化は、表現のねらいで学習分野からの視点、こどもからの視点、教材等の条件、および内容の提示で実践力が身につく授業が展開される。

4.8 傾聴

- 1) 総合的な授業展開での傾聴とは、学生がこどもにとって話しやすい人為的な表情、視線、態度をとることでこどもとの対人的コミュニケーションを深める教育指導の展開であり、問題点を解決するための副次的効果が計測される。
- 2) 傾聴とは、見通したこどもの意図を受容的に聞きいれる技術のことで、発生する問題点を新たなものに生み出す観察方法として評価される。
- 3) 実践的機会を得る話す内容だけではなく、こどもの感情や価値観などの総合的な指導行為がこども能力や態度の育成に繋がることはいうまでもない。
- 4) 学生は、生じる疑問や問題点の解決の傾聴を活用する際には、うなずきやあいづちを盛り込む態度は側面からの援助となり、コミュニケーションの支えあいとして遊びを作る創作活動の受動活動を拡大される。

5. コミュニケーション技術

上記で述べたように、造形過程のなかで創作の認知活動や思考活動の環境整備として言語を介したコミュニケーション技術がある。こどもの思いや意図を十分に共感しながらそれぞれの個性に応じた創作の指導形態の中で創作理解の有効的な表現の活用策であり、学習支援の配慮を図る補助的なコミュニケーション伝達として意識の変化などの援助となる。

つまり、指導経過の中で保育者の補助的な援助をこどもが認知する自己開示である。すなわち、コミュニケーション技術とは「工作による表現」学習の実践的なこどもの頭脳的活動の機能効果として統制される情緒的効果や援助的支援の直接的な指導・訓練の大切な原理として計画的に進めていくことが求められる。

保育者は、実践上でこどもの性格の状態を理解し、その場の状況に応じた適切で言語的な援助の対応技術を使い分けて積極的な対応をこどもへの指導のあり方を提供する心がけに対応した配慮で示唆を与えることである。

このように、保育者は実質的な学習の機能を生みだすさまざまな選択肢を用意して、複雑に働く表現活動の基盤効果の側面から大切な援助の定量を計っていく適切な自己決定を支援が常時求めていくことが大切な教育プログラムの提供という姿勢が問われるのである。

造形活動の創作表現の明確化というものは、こどもが多岐に及ぶ造形活動のなかで言語的な説明や表現できない場合など、また感情の表出の取り組みについてはこどもが伝えたい学習内容の有意差を受け止め、基礎的な事柄を例示しながら創作への指導・助言の関わりに分析的な取り組みが徹底されることである。

こうして、造形支援を共有していく支援体制の下で、こどもと一緒に豊かに構築されていく学習内容の対応は、造形活動の動機付けの誘引として明示され、目標とすべき指導評価の観点を考察させて指導形態のなかで質的な行動を拡大させるためにどのような関連づけを検討課題として理解を深めさせていくことを目標に掲げることである。

それが、表現活動を基盤とするこどもの創作展開の自主的な解決の応援であり、能動的な自己の課題解決の力を高める援助的行為である。また、こどもに新たな課題が導き出される創作理解のヒントとして意識の改革を自覚させて、効果を残す段階的な指導をこどもの援助の原則として全体の背景から集約して理解させていくことを心がける学習意欲の必要性が要請される。

そこで、こどもにとって話しやすい表情、視線、態度を取る行為には、肯定的なものや否定的なものでも優しく受け入れる態度や言動に保育士・幼稚園教諭になる学生に感情を自由に伝達表現できるように、受動的に聞くこと概念技術と感情表現を大切に働きかける支援の作業体制でこどもへの指導のあり方を認識させている。

それが、上記に述べた身近な関心や態度の関わりが傾聴であり、こどもの大切な自立能動的な支援でつながる感情や価値観など総合的に聞き入れることで、次の作業段階へと展開していくのである。

そのように、傾聴を活用する際は必ずうなずきや相づちを盛り込むことが大切で寛容な受容であり、こどもに相応しい自己決定を支援する理念に通じる最善の配慮が明示され、こどもに

理解の意義を捉えさせて向上を図る姿勢が問われるのである。

それが、統制された情緒関与に適合する言語的コミュニケーションの付与的効果の原則であり、十分なこどもとの学習機能が生みだされる対話的な協働指導が有効なコミュニケーション技術として定義されるのである。

本学のこども専攻「工作による表現」において、その要請に応えるコミュニケーション技術の促進の評価と信頼度は授業の検証として考察される学習プログラムの展開を理解しながら、いろいろな選択肢を用意してこどもの成長や発達過程を学習プログラムの支援体制を一貫として、自己決定を支援する効果を大きい段階的形成として捉えさせている。

つぎに、時代の流れである情緒感情の知覚として本格的なIT機器類などの加速到来は、いま工作学習の成長力の基盤にもなっている。このように、副次的な機材の効果が期待できるIT機器類利用の非言語的コミュニケーション技術のより充実した授業の展開を積極的に取り入れられている。それは、学習のプログラムの段階的形成を支援する先導的な取り組みとして、学習効果を自覚させながら能力の関心と態度の充実を図ることであるが、その器材使用にどう関わるのか新たな課題が導き出される。

とくに、本学の「工作による表現」では、創意工夫の環境の構築として造形技術の視覚的な見地から構成的造形要素でもある色彩の法則理論、色彩配色理論、色彩感情などの色彩のメカニズムが授業のなかで計画的に導入させることは学生たちが明確な色彩の魅力を理解し、また、その色彩の特質を効果的に生かす感受の能力の高まりは極めて重要であり質的に拡大させる必要があると考察させられる。ここでいう非言語的コミュニケーションとは、コミュニケーション補助するデザインの下絵や筆談を、最近のIT機器類の価値観に基づき、使用しながら評価・指導する伝達方法のコミュニケーション補助として機器と非常に利便的で創作の構成上の特徴や多様な可能性を大いに引き出してくれる。どう関わっていくか計画的に進めていくことが求められるのである。

こどもの成長基盤の指導の観点からも大きな効果が期待され、こどもの本能的な表現欲求である創作活動の誘意性と創作技術や視覚的なデザインの展開の変化など、具体的な事例の参考を図りながら創作意欲を引き出して満足を与えてくれる探求的な学習の指導計画の実例となり、前提を適切に行うように援助の関わりを以下のように考えが示される。

6. 色彩構成

日常生活のさまざまな場面の色彩との関わりは非常に深く、とりわけ、色彩は心理的要因・生理的要因として大きく起因し、視覚的效果や知覚的效果に大きく影響を与えていると定義される。そこで実生活の面から考えても私たちの生活と密接な関わりを確認すると色彩がどの用な作用を持つのか、生活に見る色彩を上手に使うために色彩とその仕組みを知っておきたい特質やベーシックな色彩機能が構成されている。そこで、色彩にはさまざまな心理効果の感情があり、つねに社会に浸透して私たちに視覚に訴え働きかけている。このように、色彩が抱かせる情緒性や識別性など数多くの働きがあり、さらに具体的な色彩のイメージからの色彩心理や配色ルール、配色調和のテクニックなど色彩構築がなされているのである。

こどもの工作表現における保育士・幼稚園教諭にも重視される色彩知識の役割は造形表現の教育的な現場での重要な条件としての確に受け止め、必要不可欠なツールであることに注目すべきである。このように、日々の実践授業で大事な表現活動における創作の基本と保育者の支援で構成される色彩の感覚的要素である対比や同化、心理効果を活かした配色構成に色彩の感情的効果は有効な創造行為の表現手段で組み立てられるのである。ここで色彩の意義とともに考察を試みたい。

指導形態のなかで工作による表現の重要課題として技能習熟のうえに造形美に対する気づきや感性を高めさせて、色彩の楽しさを感じさせる学習の充実と指導原理の要点に基づいて創造することの共感的理解を示させているが、具体的には色彩の重要な働きを系統的、理論的に色彩教育の重要性を徹底して認識させて習得させている。このように美しい色彩の感覚や色彩の構成力がどのような重要性があるか、使用する目的や機能について色彩に関する幅広い知識や技能を問う造形指導の色彩配色の基本的な考え方を足がかりとして、また多岐にわたる色彩心理の内的要因として色彩の必要性をこの教科の定義として学習の手立てを理解させている。

このように保育士・幼稚園教諭となる学生には、さまざまな場面において強化されるべきこどもへの重要な色彩のプレゼンテーションを明示して、色彩機能の不可欠な工作表現のツールとして効率的な技法の測定を研究させている。それを基にして学力観に立つ学生の態度も色彩を使用することで色彩を感性機能へと働かせこれまでの潜在的な態度も一変する。まさに色彩効果はマジックであり否めない。したがって、こどもが日常生活の関わりから視覚的な情緒性や識別性などの感情効果を引き起こす大切な色彩の特質の効果を工作による表現の徹底された指導指針として、また、その共通理解の評価と指導を学習の指導計画の方針として、訴求力のある色彩の指導を主体的な要点として取り組むことである。すなわち、表現手段である色彩の特性がどのように色彩構築で活かされていくか、その創作行為のなかで色彩の特質や配色構成という主観的な色彩の調和美の考察を段階に応じて指導と訓練を創作の助言として援助するのである。

このように、色彩の教育観には人間の心を豊かにし、さまざまなこどもの感性や関心を高め、こどもの考えや心情がどのように思考力や判断力に表出するか、色彩の不思議は横断的、総合的にさまざまに解釈させてくれている。そこで基本的な要素である色彩を構成することは根底的な感情に情操感覚が要請されて創作にも潤いが増して、創作する態度や多くの作品の創作から色彩感覚が高まるように確かな表現の技術セミナーとして養成されるのである。

このような授業計画の観点から、重要な原理が貫かれる色彩による表現力の知見をこの授業で深めるとともに、感情の表出や創造力を伸ばす意思伝達の意義の学習として詳しく検討しておくことは造形教育を進めるうえで必要な課題と定義される。

さらに、こどもの感動を引き起こす色彩の機能、諸問題が絡み合っって色彩不思議の特質の理解を深め、造形の創作遊びの予測が基本要素となる感性を高め、また学生に内面の豊かな発達として創造性の育成に深く関わる目指すべき学びの援助として、色彩の美的形式の説得力が強く重要視されるのである。以上のことから「工作による表現」では、こどもの記憶とか思考とか興味・関心という活力をもたらす自己変革の高まりや美的感情とか人格感情を創作に対する姿勢のあり方として学生の内面を理解しながら色彩環境を工夫を発展学習として捉えさせて、

大切な造形表現における保育士・幼稚園教諭の役割として、しっかりと実践を通した色彩の持つ意義や特性の適用範囲を制作の指導計画の考え方の重要な能力として援助の関わりを支援して行くことが求められる。

したがって、創作過程のなかでさまざまな視点から感情を抱かせる色彩イメージが心のなかに質的变化を広げたりしていくことを測定できるように造形表現の教科指導における保育士・幼稚園教諭になる学生に、幅広い知識を教師の重要な役割として多角的な調査研究させて、連携支援の方向からこどもの変化の実態の援助と指導を呼応しあって把握することなのである。

例えば、色彩の認識については「工作による表現」との関わりの中で、こどもの技能、精神、知的発達などを育成する観点から、身の回りのものや物の現象に対して色彩は配色を示す以上にさまざまに観察する重要な理由の教育課題としてその検証を明らかに求めさせている。

このように幼稚園教育要領の領域「表現」においては、こどもの造形表現に関係する色・形・イメージについての多様な指導に資する総合的な学習の知見として、質を向上させる教育活動の要求事項である背景のねらいにイメージを豊かにさせてその事例を理解させている。

美しいものや心を動かす出来事に触れさせては色彩の効能についてのイメージを豊かに身につけていくという色彩の遊びは大きな意義が重要である。そのように、さまざまな作品の背景にある造形の秩序に関係する色彩理論と色彩構成も合わせて実践的な整備を進めながらこの工作による表現の教育指導の一環として、各領域のねらいおよび内容を理解させて保育実践の到達目標に取り組ませているのが求められるのである。

したがって、こどもの造形表現における保育士・幼稚園教諭としての支援の役割として、まず、日常の保育支援のなかで、こどもが心を豊かにする色彩の諸課題の出来ごとに出会えるようイメージを心の中に蓄積させたり、広げたりしていくことをしっかりと学生には理解を深めて意識させておきたい。まとめとして、色彩に関する知識や技能の相関性を理論的、系統的に学ばせ、保育指導のあらゆる創作現場で必要となる色彩の感覚をこの授業で磨かせることは重要であり、目標及び内容を定める実践上の留意点を保育者となる学生はどう関わっていくのか。このように感性を高める色彩の基本原則を教育課程の編成方針・実施方針として学生に集約される目標設定として援助して行くことが不可欠である。

こどもの感情や価値観などの能力的な差異はあるが、指導する学生に単に知識を与えるのではなく、全般を見据え安心して使用する色彩理論構築の指導のなかで、その配色方法の本質を理解できる学生の育成を図るのである。学生が色彩の重要性を十分認識し、多くのこどもにより適切かつ効果的に行われる指導法に基づき計画的な推進を願うのである。

このように、色彩配色の仕組みとその手法、色彩が持つイメージに対してのこどもの色彩の認識は指導要領の達成目標として「工作による表現」の造形的な良さや作品の美しさを感じ取る学習プログラムで視覚的伝達される色彩を安心して具体的な解決策で主体的に取り組ませ、工作表現技術の活用化により活性化と定着化を図ることができる。

その原則の色彩の美学的な情動的作用を抱負に体験させるために、学生に色彩の理論に対する確かな色彩が関与するその法則性を上記で述べたIT機器類を利用の言語的・非言語的コミュニケーション技術の実例をベーシックな色相環・トーン図・色の構成で構築される色の心理作用・連想・感情効果などの授業の組み立てた色彩のシミュレーションを検証をさせて意欲

を大いに喚起させている。

つまり、機器使用によって色彩構築によって簡単に理解、そして学習の誘導ができる。色彩は心理的な影響として暗記力・回想力・認識力などと多様な見地から有効に機能され色彩の効果はさまざまな人の印象や感情、錯覚など心理的作用を与え、人の心の働きに重要で大きな影響を与えているのである。

7. 工作学習の表現課程

7.1 造形表現の意義と実践的指導計画の考察

目的および内容の工作学習の表現の意義と実践的指導計画にあたっては、保育士として子どもに対する大事な個に応じる適切な支援活動である表現の意義と実践的指導計画体制の整備で成立する。

さらに工作学習の表現課程の自己の明確な確立と要請される存在意義の確立は工作学習の表現に関する技術的課題をテーマとして、既存技術を背景とした素材の構成比率の検討と開発が必要である。工作表現の成果および成果の活用策である指導計画に基づき、拡散するアートシーンの多彩な手法やテーマ性の追求や工作学習の表現課程の計画として活発な場を研究成果の有効な活用策として表現の意義と実践的指導計画の確立によってそのニーズは満たされる。それは、制作における生産的な活動支援であり行動的伝達になる。

具体的にその技術を活用することが必要表現に関して、題材による目標や内容、材料、用具、表現方法、課程、指導方法など総合的に構想したそれぞれの事項の指導と、造形活動の表現主体によって子どもの自己の考え、夢や想像などを基にした主題の生成や個性を生かす創造的な自分の内面の最大の関心ごとである事を認識し、制作の追求をつきつめることである。

さらに、付則する環境での美的構成を意図とした独創的な発想・構想についての教育者の生活を心豊かに改善するための創造的な発想性の有用性と美しさとの調和、生産性などを考えた制作の活発な構想の実務行動については子ども支援の補助的作業の重要性についての意識づけの理解と確認するための効果測定の取り組みを積極的に提供していく継続性と凡庸的な能力はとくに指導する教育者の対策として求められる。

ここに工作教育におけるその表現の観点ならびに指導の原理の展開にあたって留意すべき概要の観点をまとめてみた。

7.2 工作による表現活動における指導の観点

※教師の支援とは、造形創作の基本となる演習や練習などのエクササイズによる事前指導で、表現活動の観点である知識と技能の向上につなげる適応作業である。

1) 課題と向き合う (着想・発想)

- ：課題の導入は、工作表現をする動機である着想であり、表現主題の発想であるイメージの喚起に繋がる大切な要素である。
- ：題材・教材は、教師とこどもの思いのきっかけを結びつけるもの、つまり媒体である。
- ：題材・教材は指導の目標や創作内容の中心的思想の手がかりとなる。
- ：イメージの力とは「創造」「心象」「具象と抽象」「感覚」「情動」「色彩感情と配色」構成の成立である。
- ：こどもの心をほどいて心の扉を開ける共有の行為は、信頼度を高めていく絆であり、大切な共感的理解である。保育士とこどもがともに紡ぐ適切な支援なのである。

2) 創作の基本と支援

(A) 主題的構成要素 (導入・認知・情意・技能)

- ：発想…こどもの考えや心情をどのように表出させるか大きな課題である。
- ：構想…訴求力のあるデザイン工夫、そのための下絵は数多く描かせる。
- ：膨らんだイメージと課題の整理とは、膨らんだアイデアを束束させながら具体的内容まで落とし込む、より具体的な方向性を明文化していくことで膨らんだイメージを作る・働かす・形にすることである。
- ：共感的理解は、重要なコミュニケーション要素で、こどもを理解することである。つまり、相手を評価するのではなく、傾聴などを通して相手とその世界を理解することもへの援助であり、相互の心の絆の扉を開いてデザイン構築につなげる教育の展開である。

(B) 構成感覚的要素 (展開・成形・配色・色彩心理・美的秩序)

- ：構成感覚的要素とは、論理的に構成された体系であり、配色構成とは、色彩感情・面積効果・対比現象・同化現象・心理効果などの統一と変化の要素であり、配色によって美しく生かされる視点を忘れてはならない。
- ：色にはそれぞれ特徴があり、私たちの心理や行動に大きな影響を与えている。色の効果と心身への影響は色彩心理でも判断されている。色彩の感情効果の構築(連想・心理効果)主観的な価値観に基づく知覚的效果は創作活動の中で色の段階に導かれることは重要である。
- ：適応表現の構築(構造表現の仕組みの構築と伝達の適応表現)とは、目的となるものを表現するのではなく、純粹に自己の表したいものがある目的を持って、それに適応させる表現活動で自己啓発につながる創作指針である。
- ：技法的要素(展開・表現の手段・制作の順序・使用用具)はこのように諸要素の関連性を捉えており、制作の過程で実態を読み取りながら適切な提案が求められる。
- ：基礎的な造形材料としての基礎的な技術と造形指導(分離・変形・結合)の展開で興味や関心などの提案していく発展がある。
- ：配色構成上の特徴や可能性(動勢・色彩心理)を引き出すことで色の配置、構成すること。色彩の基本を十分に考慮し、感覚面での色の効果、また、作用に注目する「配色」つま

り色の組み合わせ方を考えること適切な支援が求められる。

3) 作品テーマの支援

- ：励ましの評価とは、適切な支援としての創作スキルとしてこどもの欲望を大いに満足させる遊びの提案である。
- ：意欲を喚起させる言葉がけや傾聴は、こどもの気持ちや有用感を実感させる大切な励ましの評価になり大切な心がけの寄り添った援助である。人的資源（資質）の育成になる。
- ：相互理解のもとに成立する言語的コミュニケーション効果の誘導は、こどもとのより良い関係が構築され、情緒の安定に向けた大切な援助である。
- ：非言語的コミュニケーションとは、相づちやIT機器等を使用する指導法で有用感の実感が起因され、意図を持った適切な支援でもある。
- ：こどもの造形美に対する気付きは感性を高め、想像することの楽しさの深まりが遊びを作り、興味関心の度合いを高める学習指導を充実させる。

4) アフターワーク（まとめ）

- ：完成された課題作品がどんな風に変化したか観察による自己評価の振り返りの援助は創作過程での計画や行動観察、形成的なそのものを見直す評価となる。
- ：歓声とは、鑑賞により作品の良さや味わいを楽しませることで、こどもの顔に満足感の態度や喜びの表情の度合いが表出される適切な支援であり、豊かな情操教育に結びつく適切な教育効果の働きかけである。
- ：制作のプロセスで、援助していく上で大切なことは、作品に愛着が持てる遊びの提案を共有していく励ましの効果と興味関心の創作指針の支援が教師に求められ、教育者としての運用能力の姿勢の発揮の場である。
- ：鑑賞とは、完成作品の成果の得策として、課題作品の変化と自己評価の振り返りの援助法であり、作品への愛着など心を楽しませる適切な支援であり、また、制作プロセスを見通したこどもの意図や活動そのものを振るかえる有意義な指導でこどもの関心を広げる大切なことである。
- ：創作前と創作後のこどものストレスの度合いの変化の確認は、こどもが作品に対する大切な自己開示であることを明確に把握されることが望ましい。
- ：創作のなかでの喜び、こどもの歓声の度合いは、こどもが作品の良さや美しさを見つけているか、より満足いく作品であったかの情緒に向けた援助、喜びのバロメーターとして保育士は観察の視点を忘れてはならない。

8. 鑑賞による成果と学習指導

「工作による表現」の成果の得策において、成果の得策という鑑賞行為の教育を行なっている。共通の認識として鑑賞による創作表現で育むこどもの本質的な造形の成果を作品鑑賞という基本的な態度で楽しんでいく学習プログラムの目的を明確にするものであ

る。鑑賞の手順と作品のこどもなり明確な視点を持たせ課題の表現が表現主題に合致しているか、つまり、自分なりにその良さが納得できているか、また、思い通りにできているか、付加修正の気付きも提起させて創作表現の充実を後押しする保育学習の実戦の創造的な自己肯定感を高める成果の活動として本質を捉えさせている。

このように、鑑賞による事後指導の意欲に繋がる多様な見地から検索する動機や表現課題に合った成立事情の解決が適切に期待できると同時に、こどもに体験的な喜びと達成感の取り組みの現状が認められる実践的な態度が育成されるこどもとの深いコミュニケーション能力を促進させるものと言える。いわば、鑑賞とは多様な造形活動の制作プロセスをたどって成し遂げられていくこども一人ひとりの特性に応じた発達の過程の総括的な指導を行うことであり、学習能力を伸ばす高い使命感と創造活動の根本である楽しみや味わいの教育的効果と学習意欲へと繋がる側面からの援助であり指導形態の実例である。さらに、こどもに造形表現を愛好する心情と豊かな情操を味わう共同の学習環境を構築する協働作業である関心と知識についての総括指導は、次の活動へと展開していく状態把握の大切な援助である。

これらの諸点の内容を具現するために、作品である対象物と対話的に指導する学生に、こどもの表現に対して、まず、個別対応の言語的コミュニケーションによる鑑賞活動の助言と能力の評価等、道徳性を要請させるのである。そのように創作表現や使用技術のさまざまな視座によってこどもとの対面的な思いや意図に共感しながら観察する適応作業でさまざまな収穫行為が求められる実例として教育活動を配慮させている。

このように、完成後の適切な支援として鑑賞行為を行うことは、こどもの個性に応じた適切な支援をすることにより、勘案されるこどもの総合的な創作意図による色彩配色や構築作品にさまざまな材料資源を活用したこどもの表現に関する創作意図を植え付ける基本事項でもあり、充実をよりいっそう計っていく必要がある。

要するに、全体鑑賞を多様な見地の諸点から分析される要点を評価観察として、全体像を把握することで道徳性を養う方策を強調している。つまり、全体鑑賞は創作結果の深い共感を持つ自己開示の喜びの作品の解決方法として、全体鑑賞で味わう完成後の観察を教師となる指導の学生の表情からも高い歓声があがる。これらは「工作による表現」の定位されるべく楽しい有効な授業計画であり、多様な作業に即したカリキュラムが編成されることである。こどもに対しては技術と能力を見抜く視点と日常の重要性を重視する観点で工作表現を実施する制作の方策を講じることである。

今後の授業計画の指導の組み立てや、検証授業として課題整備を明らかに重視すべき事項として教育効果が高く示されることを願っている。

9. おわりに

本学、こども学専攻において「工作による表現」に要請される学習は、保育士・幼稚園の教諭養成校として「幼稚園教育要領」や保育所の根拠法令の「保育所保育指針」に基づき図画工作の教育的な主題を明瞭に授業内容の効果的な成果として学生に自己啓発の省察を求めさせるものである。

こどもの人材育成に基づき、図画工作の造形要素を扱う基礎的知識や技能、発想の提示から技術等に即した保育士・幼稚園教諭となる学生たちに指導上の教育的意義と、学生に問われるこどもの主張をどう授業の観察でどのように確認し、評価の機能をどう見つめ直させたか、またどのように重要な造形原理を見出そうとしたかの能力開発を進めるとともに、その根拠となる制作作業の導入から構想、制作、鑑賞までの制作過程の観察を「工作による表現」の授業のなかで教育課程の意義と編成の方法を振り返り、その学習形態の課題に不都合や不利益が生じていないか、このように授業の管理によるこども育成の豊かな習熟の務めと自己啓発に対する支援等を通じて、この「工作による表現」の共通課題の授業構造の価値判断を示させて学生に育成の計略である到達目標としてカリキュラム指導の重点化の理解を深かめさせているのである。

その学習編成の原理の成果である創作による「遊び」を作り出すこどもの自発性、さらに、創造活動の基礎を形成する心身の調和のとれた発達援助の補助的指導を「工作による表現」の授業を通して、学生に自己の立場である保育士・幼稚園教諭を認識させて重要な連携を模索する役割と指導のあり方を決定させている。保育士・幼稚園教諭となる学生に学習過程の原則の意義として、授業構造を理解する「工作による表現」授業の実践活動を通して、こどもの遊びの柔軟性など保育士・幼稚園教諭としての表現力の向上など、基礎的な学習理解と保育向上に取り組む専門性が貫徹されることが授業実践でより明らかな承認価値を指導の基礎として検証させている。

このように、これらの意欲につながる指導の契機と創作理解をこの科目の主題の目的の意義の実際を把握させるために、教育実習の形成的評価の承認価値を試験的なアンケートとして学生に論考の回答を求めてみた。その一例は「創造的な授業を通して効果的に行う創作環境づくり」「豊かなこどもの個性の尊重に努めたか」「推測される現場での指導力の現状と力量」「協力・協働する連帯感の実現」など、学生に保育士としての能力開発を図る評定尺度の概念である。

- 1) こどもを対象とする主体性の興味・関心への理解を深めさせた。
- 2) 保育者の役割や責任は大きい、場面を想定して表現する教育課題へと指導ができた。
- 3) こどもの行動を読み取りながら創造的な表現の幅広い活動を通した、とくに多様な形態に即したカリキュラムの編成は大切である。
- 4) 実習活動の重視は、自主的・自発的なこどもの学習の促進は寄り添った学習内容の指導の対応が必要である。
- 5) こどもに遊びの発見があり、創作の予測や仮説を立てながら指導体制の工夫や援助で教育効果を高めることに意義を見出した。
- 6) こどもに対しては、技術と能力を見抜く視点と重視する観点をもって興味・関心の理解を深めた。
- 7) 保育士・幼稚園教諭の資格として、体験を通した自己教育力の資質に発揮される能力をこの授業の造形活動の教育指導として重要性を感じた。
- 8) 保育士・幼稚園教諭としての観点から、多くのこどもに応じた知識、スキル等を習得させていくカリキュラムの必要性を促進させた。

- 9) ことばによるコミュニケーション効果として、基盤的なこどもとの協働の有効性が構築された。

こうして、教育課程の観察結果として学生たちに実施される実習という共同研修で育成される相互の連携と協力を進める環境整備により積極的な関わり方を求め、こどもの育成を計る内的心情の醸成など、上記に述べるように身につけておく留意すべき要点事項や規定されるこどもの理解度を確認する支援の効果測定など、授業成果を振り返っている姿勢であろう。

このように、「工作による表現」の援助と指導での心情や感性を育成するとともに教育活動の役割と編成で求められる人格の完成という到達度をめざす特定の知識や技術において、創作実践で展開されるコミュニケーション能力の有意な有効性を目標としている。それゆえ、保育士・幼稚園教諭として、こどものあるがままに受け止める受容の原則や連帯感の醸成という重点的な資質・能力の基盤である諸課題の理解を深めながら積極的に取り組む解決の姿勢を踏まえさせることは重要である。

前章に述べたように、豊かな望ましい情操感覚を養う保育士・幼稚園教諭の使命感や倫理観の重要な原理に力を注ぐように質的分析の調査結果から援助のあり方など十分な検証として問うことは大事であると察せられる。

こうして保育士・幼稚園教諭として、こどもの興味や関心発達などの実情を考慮する意義や内容の妥当性の確認や幼児期にふさわしい体験で得られる幅広い創作内容を有効な教育・保育の学習の獲得として造形活動の基盤と学習の概念を自ら省察していかなければならない。

結論として、「工作による表現」の幅広い創作活動で得る美的体験と造形を愛好する豊かな心情の育成を将来、こどもと実践を踏まえ模索していく学生たち。保育士・幼稚園教諭の幼稚園教育要領を踏まえた教育課題の意義として、基礎的な教育原理の考え方を慎重な支援の配慮を推進させていくことと推察される。

引用・参考文献

- 1) 「造形の基本と実習」真鍋一男著 美術出版社 1982発行
- 2) 「美術科の解説と展開」監修文部省内教育課程研究会 遠藤友麗編著 1989発行
- 3) 「対話による美術教育」橋美智子著 福村出版社 1990発行
- 4) 「保育をひらく造形表現」楨英子著 萌文書林 2008発行
- 5) 「幼児造形の研究」辻泰秀編著 萌文書林 2008発行
- 6) 「色彩検定3級」長谷井康子著 新星出版社 2009発行
- 7) 「美術の鑑賞教育 理論と実践」川村善之著 日本文教出版 1975年初版発行
- 8) 「美術科学習状況の評価と指導」2デザイン・工芸編 新川昭一編 明治図書出版株式会社 1982

Webオンライン

- 1) 「学力と生きる力を育てる」梅原利夫著 和光大学現代人間学部紀要 第4号 2011年3月

https://www.wako.ac.jp/_.../_2011-0625-1222.099326165b731800dbd2b87201410a.

- 2) 「幼児の色彩調和に関する研究」 松岡重博 教育科学研究報告7, pp. 7-16 : 1961 1961-06-30
<http://hdi.handle.net/10069/31775>
- 3) 「造形表現教育実践講座」 第17回 幼児の描画と色彩 - 色彩経験を豊かにする保育 -
www.eonet.ne.jp/~isa-o/kal/zoukei17.htm

